

論文審査の要旨および担当者

報告番号	甲 第 号	氏 名	中村 肇
論文審査担当者：	主査	慶應義塾大学大学院教授	博士（工学） 高野 研一
	副査	慶應義塾大学大学院教授	博士（工学） 中野 冠
	副査	慶應義塾大学大学院准教授	博士（政策・メディア） 神武 直彦
	副査	公益財団法人 労働科学研究所所長	博士（医学） 酒井 一博

(論文審査の要旨)

本論文は熟練技能伝承を円滑に行い、我が国の技術立国としての立場を次世代に継承しようとする国家的プロジェクトの一翼を担った研究であり、今日の「ものづくり企業」の経営戦略の基盤を提案したものである。タイトルは「わが国の中堅・中小ものづくり企業における技能経営に関する実践的研究」と題し、全体で6章より構成される。論文および発表は日本語で行い、同時に英語サマリでの発表を行った。

著者は20年以上に渡る三菱総合研究所での勤務において、終始、経済産業省を中心とした国レベルの数多くの「熟練技能の伝承」に関する研究プロジェクトを経験し、その中で主導な役割を果たしてきた。特に、我が国のものづくりの中核となる中堅・中小における技能経営に力点を置き、どちらかという経営基盤が弱い企業に対して実践的な方策を提言してきた。また、技能経営の推進により得られる経営上のメリットを大規模な調査で明らかにし、力点を注ぐべき施策を明らかにしてきた。特に、以下の項目の重要性を指摘した。

- ①自社の技能コンピタンスの強みを生かし、さらに強化すること
- ②差別化を図れる技能を広く社会に知らしめ、活用対象を模索し、アピールすること
- ③社内では技能向上に対するモチベーションを高め、向上しやすい環境を創成すること
- ④独自の技能に興味と関心を持つ顧客の要望や動向に対応すること
- ⑤長期的なビジョンで戦略的な技能経営を行うこと

また、これらの経営上の施策の実践状況と今後の経営状況との相関関係を調査した結果、それぞれ5つの因子とも調査時点および3年後の時点での売り上げ状況は有意に増加傾向となっていたことを確認した。これにより、必要にして十分ではないにしても、技能経営を戦略として実施することは企業活動には有利に働くことを示した。さらに、技能はその多面的な価値を十分に認識し、模倣しにくく、より特殊化していくことにより、顧客の獲得、アピールによるマーケットの拡大、新たな技能展開の促進を果たすことにより、「技能価値コミュニケーション」経営の時代へと移行すべきことを提案した。さらに、このような取組を促進するための国の取り組みの提言や促進にも寄与し、「現代の名工」、「ものづくりマイスター」などへと活かされている。

本論文では、今後の展開として、これらの技能経営を実践している企業同士が、その価値を認め合い相互にコミュニケーションを行うことにより、連携し、コミュニティを形成することにより、容易に模倣できない価値の高い製品や技術システムのさらなる高度化に寄与することを示唆している。今後の我が国の技術立国に向けて、技能で差別化を図り、創造性の高い製品を供給できる基盤となる可能性が高く、有意義である。

本研究は、以上述べた通り、20年に及ぶ豊富な高度技能伝承プロジェクトを主導的に進める過程で得られた経験と研究経歴に裏打ちされたものであり、技能経営の重要性とその実践によるメリットを示唆したものであり、長期的ビジョンに基づく、我が国の施策としての価値を示したものである。この研究は、これからの技術立国の基盤となる高度熟練技能の継承と更なる進化を果たす上で中核となる中堅・中小企業の戦略として有用なものであり、新たなものづくりの基盤技能育成施策としてさらなる進化が期待できる分野であり、その分野の前進に大きな貢献を果たしてきた。以上により、審査員は全員一致で学位審査の合格を確認した。したがって、本論文の著者は、博士（システムデザイン・マネジメント学）の学位を受ける資格があるものと認める。